

大山町議会議長 野口俊明 様

平成 28 年 7 月 21 日  
報告者 大山町議会議員 岡田 聰



## 大山町議会行政視察報告書

I. 視察日程 平成 28 年 7 月 5 日(火)～7 日(木)

II. 視察先及び視察テーマ

- ◎ 新潟県見附市 「スマートウエルネスシティ」
- ◎ 群馬県下仁田町 「ふるさとスマホ」
- ◎ 神奈川県鎌倉市内 「日本遺産：鎌倉」
- ◎ 神奈川県大磯町 「議会活性化」
- ◎ 神奈川県伊勢原市 「大山観光及び日本遺産」

III. 参加者 野口俊明議長、岡田聡副議長、西山富三郎、岩井美保子、吉原美智恵、西尾寿博、近藤大介、野口昌作、杉谷洋一、米本隆記、大森正治、遠藤幸子、園岡伸夫、大杖正彦、大原広巳、加藤紀之各議員。  
同行者・山根浩教育長、手島千津夫議会事務局長、提嶋護大事務局主幹 計 19 名

IV. 視察内容

### ◎ 見附市 「スマートウエルネスシティ」の取り組み

新潟県中央部 面積 77.91 km<sup>2</sup> (県内最小)、人口 41,313 人、高齢化率 29.9%、議員 17 人  
北陸自動車道中之島見附 IC から 2 km、上越新幹線長岡駅から 11 km。

応対者 亀田満議会議長、五十嵐勝総務文教委員会委員長、鈴木教之教育長、樋口令子  
議会事務局長、真島綾子議会事務局次長、田伏真総合戦略室長、夫馬英之同副主幹

#### 1. 「スマートウエルネスみつけ」

##### (1) 事業実施の背景

○少子超高齢・人口減少社会の到来。○社会保障費の負担増(個人、国、地方、企業)、  
給付総額の増加、サービス内容の高度化と多様化⇒健康対策の推進が必要となった

体の健康だけでなく、人々が生き甲斐を感じ、安心して豊かな生活を送れる状態を“健  
幸＝ウエルネス”と呼び、これをまちづくりの中核に据えた取り組みを見附市で実践しよ  
うと言うのが「スマートウエルネスみつけ」である。

(2) 【いきいき健康づくりの4本柱】…① 食生活《日本型食生活のすすめ。食育の推進(朝  
ごはんて人生が変わる)》② いきがい《ハッピー・リタイアメント・プロジェクト(市  
民が企画・運営する生きがいづくり事業でH27実績:321事業、参加数6,923人)。市民  
ぐるみの景観緑化。心の健康。》③ 検診《健康の駅(全国初の自治体病院設置)で各種  
測定や体験の他に様々な相談と情報提供(約420人/月の利用実績)。小児生活習慣病事業  
(小4と中1)。小4の特別授業。》④ 運動《健康運動教室(H28.3月末現在1,445人参  
加中)》

いきいき健康づくりの4本柱を進めてきたが、ここで市民のタイプが調査研究により明  
らかになった。つまり、運動習慣があるのは35%のみ、65%は継続的な運動の未実施者  
(運動の意志は有るが来ていない市民が20%、残りの45%は運動実施の意思もない)。

また、健康寿命の延長と社会保障制度の持続を可能とするための課題として、歩くことと健康との関連性が研究で明らかであり。

(3) 〔その解決に向けて〕

普段の生活で自然と必要な運動量が満たされるまちづくり⇒歩いて暮らせる Smart Wellness City

## 2. 【スマートウェルネスみつけの推進】

◆これまでの健康施策4本柱+まちづくり全体の4要素

- ① 健康になれるまち…○歩きたくなる道路等の整備（○景観・公園・自転車通行帯等）  
○地域交通体系の整備（路線バス以外に、コミュニティバス、乗合タクシー、レンタサイクル等）
- ② 地域が元気なまち…○産業振興、雇用機会の創出（○企業誘致、企業交流会・地産地消の取組み）  
○交流（○いいところ見つけ、コシヒカリオーナー制度・見附とおき百選・まちの駅ネットワークパティオにいがた等）  
○地域コミュニティの推進（地域コミュニティ組織の再編 概ね小学校単位）
- ③ 環境に優しいまち…○見附市環境元年事業スタート（○ごみ減量・廃食用油の回収・乾燥生ごみを花苗と交換・EM菌の活用・全小中学校太陽光発電装置設置・YM菌による生ごみ実証実験・環境情報誌「エコみつけ」創刊・エコアクションinみつけ）
- ④ 健幸を理解し行動…○健幸教育・啓発・見附18年教育の推進（○喫煙防止講演会 小6中1 全員対象・健幸フェスタ・人間力を育む 四つ葉運動（○本を読む習慣づけ・花と緑で心を育む・あいさつ運動・お手伝い）・共創教育（（ふるさと見附を愛する子どもを育てる）・教育コーディネーター・わくわく体験塾）

### 【健幸に関する条例の制定と計画の策定】

まちづくりの方向性を担保するために、「見附市健幸基本条例」他の制定。そして、「歩いて暮らせる都市実現のためのスプロール化を抑制する計画」他の策定。

## 3. 【スマートウェルネスみつけ施策を進める7つのポイント】

ほとんど外出しない高齢者は…毎日外出する高齢者に対し…歩行が不自由になるリスクが4倍。認知機能障害のリスクが3.5倍。死亡率2~4倍。

- ① 社会参加（外出）できる場づくり  
ハード面…人の交流拠点や外出の目的地として、○ネーブルみつけ・イングリッシュガーデン・ふるさとセンター等の整備。  
ソフト面…生きがいや社会貢献の場づくりで、○悠々ライフ事・ナチュラルガーデンクラブ・地域コミュニティ等。
- ② 中心市街地を中核とした賑わいづくり  
運動施設、医療機関、福祉施設、商店街、公共施設等の都市機能が集積し、歩いて過ごせる楽しくて便利な市街地。
- ③ 歩きたくなる快適な歩行空間の整備（見附市道の構造の技術的基準を定める条例から反映してオリジナルの指針を策定）  
○歩行者優先へ転換…道路構造。注意喚起。路面標示。  
○歩く楽しみを演出…景観整備。健幸ベンチ。

- ウォーキング・サイクリングコースの整備…広域コース 5 ルート。ウェルネスコース 18 ルート。わくわくコース 25 ルート。
- レンタサイクル…市街地での日常的な移動手段。公共施設等 7 か所で貸出・返却（貸出数：H27年 929回）
- ④ 過度な車依存の脱却を可能とする公共交通の再整備
  - 中心市街地⇔既存集落・周辺地域。居住エリア⇔各種サービス施設を連結
  - 路線バス（広域） ○ コミュニティバス（市街地） ○ デマンドタクシー（郊外）
  - コミュニティワゴン（地域コミュニティ） ○ レンタサイクル（乗り捨て自由）
- ⑤ まちをゾーニング
  - 特定地域再生計画（H25）…地方都市の持続のためのまちづくり基本方針を策定（超高齢化・人口減少社会に対抗できる「歩いて楽しめる市街地」と「持続可能な周辺地域」を整備）
  - 誘導施策の例… ○ 転入促進（転入者の住宅取得を助成） ○ 住み替え促進（中古住宅の活用・住み替えを助成） ○ リフォーム補助（「CASBEE 見附基準」に適合するリフォームを補助）
- ⑥ スマートウェルネスシティ促進のカギは人材
  - 市民の健康づくりを啓発・サポートする人材の育成が必要⇒健幸都市実現を下支えする市職員のスキルアップ・行動変容
  - 政策自慢合戦（見附・三条・十日町の近隣 3 市共同）
  - 職員の行動変容 通勤手段（駐車場使用料を増額改定に合わせ、徒歩又は自転車通勤への行動変容を誘発。効果 通勤距離 2 km以内の職員の変化：155名の内 82名だった徒歩等が 125名に。全体でも 69名増。）
  - 市職員による「地域サポーター」
    - 市職員が、ボランティアとして、地域コミュニティ活動に参画する制度。⇒地域活動を通じた職員のソーシャルキャピタル（資質）の向上。
- ⑦ 特徴的な取り組み 地域コミュニティの構築と協働のまちづくり
  - 地域住民が主体となり地域づくりを行う。仕組み。概ね小学校単位。
  - 自助・共助・公助（健康、防災、子育て、高齢者支援等⇒地域の確かな絆づくり。顔の見える関係を再構築。）
  - 行政からの支援… ○ 活動拠点の提供（「ふるさとセンター」を設置し、専属職員を配置） ○ 活動資金（活動交付金を交付 均等割り 20万円 人口割 200円/人）
  - コミュニティワゴン貸与 20人乗りワゴン車 運行はコミュニティ組織 月額 2万円までの燃料費支給

## 所感

取組みの動機は、少子超高齢・人口減少社会の到来、そして、社会保障費の増大である。『いきいき健康づくり計画』の4本柱「○食生活 ○生きがい ○検診 ○運動」＋「まちづくりの4要素」をベースにスマート・ウェルネス・シティ構想つまり歩いて暮らす健幸なまちづくり→『健幸づくり推進計画』に発展させ、更には、『特定地域再生計画』＋「○地域包括ケア体制の確立 ○ライフスタイルに合った住み替え」に、最終的に、『地域活性化モデルケース』の6施策「○都市部のゾーン化 ○周辺地域の存続 ○公共交通再編 ○中心市街地活性化 ○地域包括ケア体制の確立 ○総合的な住み替え」に発展させている。

動機は我が大山町と全く同じである、が、その後の展開が素晴らしい。10年プランに、更には、50年後のグランドデザインにまで繋げている。

いきいき健康づくりで、体力年齢の若返りと医療費の抑制効果を実証。全国平均、県平